

遊びの時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



食事の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



午睡の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



図5-4 C保育園の保育の様子

遊びの時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



食事の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



午睡の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



図5-5 D保育園の保育の様子

遊びの時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



食事の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



午睡の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



図5-6 E保育園（0歳児クラス）の保育の様子

遊びの時間の様子

3.3㎡条件



2.5㎡条件



食事の時間の様子

3.3㎡条件



2.5㎡条件



午睡の時間の様子

3.3㎡条件



2.5㎡条件



図5-7 E保育園（1歳児クラス）の保育の様子

遊びの時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



食事の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



午睡の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



図5-8 F保育園の保育の様子

(3) 保育士によるアンケート調査の結果

A. 子どもの行動や心理状態

評価項目毎に、3.3 m²条件と 2.5 m²条件の平均と標準偏差、t検定の結果を表5-3に示した。分析には、調査に参加した子ども全てのデータを用いている。条件間で繰り返しのあるデータと繰り返しのないデータが混在しているが、検定は繰り返しのない独立したデータとして行った。

得点は、おおむね3点付近に分布しており、ふだんとあまり変わらないという結果であった。3.3 m²条件と 2.5 m²条件の間に大きな差が見られた項目は少なかった。2つの項目で統計的な有意差が認められた。すなわち、3.3 m²条件のほうが2.5 m²条件よりも、子どもが身近なものへ興味をもち、食事を楽しむという結果であった。また、子どもの発話も、3.3 m²条件の方が多い傾向にあった。

表5-3 3.3 m²条件と 2.5 m²条件の子どもの状態の比較

	3.3 m ² 条件		2.5 m ² 条件
①機嫌	3.11 (0.59)		3.05 (0.43)
②元気さ	3.16 (0.53)		3.16 (0.50)
③発話	3.26 (0.50)	> +	3.13 (0.33)
④体全体の運動	3.03 (0.67)		3.10 (0.46)
⑤手指の運動	3.15 (0.46)		3.15 (0.36)
⑥気持ちの表出	3.32 (0.60)		3.30 (0.49)
⑦意欲	3.21 (0.53)		3.13 (0.37)
⑧他児への関わり	3.15 (0.49)		3.15 (0.36)
⑨保育士への関わり	3.25 (0.55)		3.29 (0.46)
⑩身近なものへの興味	3.36 (0.63)	> **	3.13 (0.33)
⑪食事を楽しむ	3.27 (0.73)	> **	2.98 (0.40)
⑫休息をとる	3.05 (0.81)		3.06 (0.47)
⑬清潔を保つ	3.11 (0.46)		3.03 (0.24)
⑭トラブル	3.15 (0.52)		3.14 (0.35)
⑮部屋を出ようとする	3.14 (0.35)		3.07 (0.25)

** 1%水準で有意差あり + 10%水準で有意傾向あり

B. 保育士自身の行動や心理状態

3.3 m²条件と 2.5 m²条件の両方の条件を体験した 21 人の保育士のデータをもとに分析した。評価項目毎に、各条件の平均と標準偏差、t 検定の結果を表 5-4 に示した。

食事の援助や休息への配慮などの項目で、3.3

m²条件の方が 2.5 m²条件よりも、保育がよくできるという結果になった。また、2.5 m²条件のほうが保育士の声が大きく口調が強くなるという結果であった。圧迫感や疲労感など、保育士に対する負の感情は、2.5 m²条件のほうが大きいという結果であった。

表 5-4 3.3 m²条件と 2.5 m²条件の保育士の状態の比較

評価項目	3.3 m ² 条件		2.5 m ² 条件
<保育士の保育活動>			
①健康状態等の観察	3.24 (0.54)		3.05 (0.22)
②語りかけ、言語のやりとり	3.33 (0.66)		3.19 (0.40)
③食事の援助	3.24 (0.83)	> +	2.90 (0.62)
④排泄等の援助	3.00 (0.71)		2.86 (0.48)
⑤衣服等の着脱	3.14 (0.65)		3.00 (0.45)
⑥睡眠・休息への配慮	3.10 (0.62)	> +	2.81 (0.60)
⑦安全への配慮	3.29 (0.56)		3.10 (0.54)
⑧環境の構成、環境の整備	3.10 (0.44)		3.00 (0.45)
<保育士の一般的行動>			
⑨運動量・活動量	3.00 (0.45)		3.14 (0.57)
⑩声の大きさ・口調	2.86 (0.65)	< **	3.24 (0.44)
<保育士の心理状態>			
⑪圧迫感	2.90 (0.77)	< **	3.38 (0.74)
⑫疲労感	3.05 (0.80)	< **	3.48 (0.60)
⑬緊張感	3.24 (0.44)		3.33 (0.48)
⑭慌ただしさ	3.05 (0.92)	< **	3.67 (0.73)
⑮焦り・いらだち	3.14 (0.79)	< **	3.48 (0.60)

** 1%水準で有意差あり + 10%水準で有意傾向あり

(4) ビデオ記録に基づく量的分析

A. 子どもの移動量に関する分析

1.5m四方のブロックを単位とした子どもの移動量の結果を、表5-5に示した。分析には、表に示された4園5クラス分のデータを用いた。A園の1歳児クラスについては、ビデオ機器の不調により、うまくデータを記録できなかったため、分析対象からはずした。また、B園とF園については、ビデオカメラで捕捉できていない部分が多かったため分析からはずした。

どのクラスにおいても、3.3㎡条件の方が2.5㎡条件よりも移動量が多かった。しかし、標準

偏差の結果から明らかなように個人差が大きかった。そのため、クラス単位で分析すると、ほとんどの保育所で統計的な有意差は見られなかった。D園においては、5%水準で有意差が見られた。

すべてのクラスを同じデータとして扱い、全体で分析をすると、統計的な有意差は5%水準で見られ、3.3㎡条件のほうが移動活動量が多いことが示された。

また、年齢毎にわけて分析すると、1歳児クラスでは、統計的な有意差が認められたが、0歳児クラスでは統計的な有意差は見られなかった。

表5-5. 子どもの移動量

	平均値		標準偏差	
	3.3条件	2.5条件	3.3条件	2.5条件
A園(0歳児クラス)	19.1	14.1	19.9	10.7
C園(1歳児クラス)	27.7	23.7	20.6	11.4
D園(1歳児クラス)	24.8	13.4	13.8	7.4
E園(0歳児クラス)	14.9	10.8	9.2	7.5
E園(1歳児クラス)	27.8	20.3	18.3	10.8
0歳児クラス全体	17.1	12.3	15.5	9.0
1歳児クラス全体	26.7	18.3	17.2	10.4
全体	22.9	17.1	16.0	10.2

※ゴシックは統計的に有意

②保育士の移動量

子どもの移動量の分析と同じ方法で、保育士の移動量に関する分析を行った。その結果を、表5-6に示した。

結果は、表のとおり、園によってバラバラであった。D園とE園は、3.3㎡条件の方が移動量が多く、A園とC園については、2.5㎡条件

の方が移動量が多いという結果であった。いずれも園も、統計的な有意差は認められなかった。D園とE園は、どちらかという、空間を最初から仕切らずに利用している保育所であるのに対し、A園とC園は、食事等の空間と遊び等の空間が最初から仕切られている。空間の広さと保育士の移動量との関係は、空間の使い方によって異なる可能性が考えられる。

表5-6. 保育士の移動量

	平均値		標準偏差	
	3.3条件	2.5条件	3.3条件	2.5条件
A園(0歳児クラス)	6.8	44.0	5.4	25.4
C園(1歳児クラス)	11.0	32.0	1.4	12.7
D園(1歳児クラス)	22.7	9.0	14.4	15.6
E園(0歳児クラス)	21.3	18.5	15.0	8.5
E園(1歳児クラス)	20.3	18.0	9.7	10.0
0歳児全体	13.0	31.3	12.3	22.2
1歳児全体	18.9	18.1	10.5	14.1
全体	16.1	24.3	11.4	19.0

※いずれも統計的な有意差はなし

③子ども同士の接触量に関する分析

自由遊び時間に他の子どもと接触(ぶつかり)の回数をカウントし、その結果を下表に示した。

どのクラスにおいても、2.5㎡条件の方が3.3㎡条件よりも子ども同士の接触量が多かった。しかし、個人差が大きく、クラス単位で分析すると、ほとんどの保育所で統計的な有意差は見られなかった。C園においては、クラス単位でも5%水準で有意差が見られた。

すべてのクラスを同じデータとして扱い、全体で分析をすると、統計的な有意差は1%水準で見られ、2.5㎡条件のほうが子ども同士の接触量が多いことが示された。

また、年齢毎にわけて分析すると、1歳児クラスでは、統計的な有意差が認められたが、0歳児クラスでは統計的な有意差は見られなかった。

表5-7. 子ども同士の接触量

	平均値		標準偏差	
	3.3㎡条件	2.5㎡条件	3.3㎡条件	2.5㎡条件
A園(0歳児クラス)	5.0	10.0	5.10	11.02
C園(1歳児クラス)	1.6	14.0	1.65	15.77
D園(1歳児クラス)	4.9	8.1	5.24	8.33
E園(0歳児クラス)	4.8	5.6	7.13	8.26
E園(1歳児クラス)	4.3	6.9	3.78	8.04
0歳児全体	5.3	7.8	11.02	5.91
1歳児全体	3.6	9.6	11.34	3.99
全体	4.2	8.9	10.67	4.83

※ゴシックは統計的に有意

④子どもの姿勢に関する分析

自由時間にとられていた子どもの姿勢について、図5-9に示した。

0歳児も1歳児も、また3.3㎡条件も2.5㎡条件のどちらの条件でも、移動を伴わないで立っている状態や、うつ伏せの状態、またハイハイで移動している状態が多いことが示された。

0歳児と1歳児の違いを比較すると、0歳児では少ない歩行（立位状態での移動）が、1歳児ではある程度見られた。また、0歳児では、寝転がっている状態や、うつ伏せになっている状態が、1歳児よりも比較的多かった。

3.3㎡条件と2.5㎡条件の違いを見てみると、1歳児では大きな違いは見られなかった。

0歳児では、位置移動を伴わないその場での立位の状態が2.5㎡条件で有意に多く、ハイハイなどの形で移動することが3.3㎡条件で有意に多かった。

⑤子どもの活動内容に関する分析

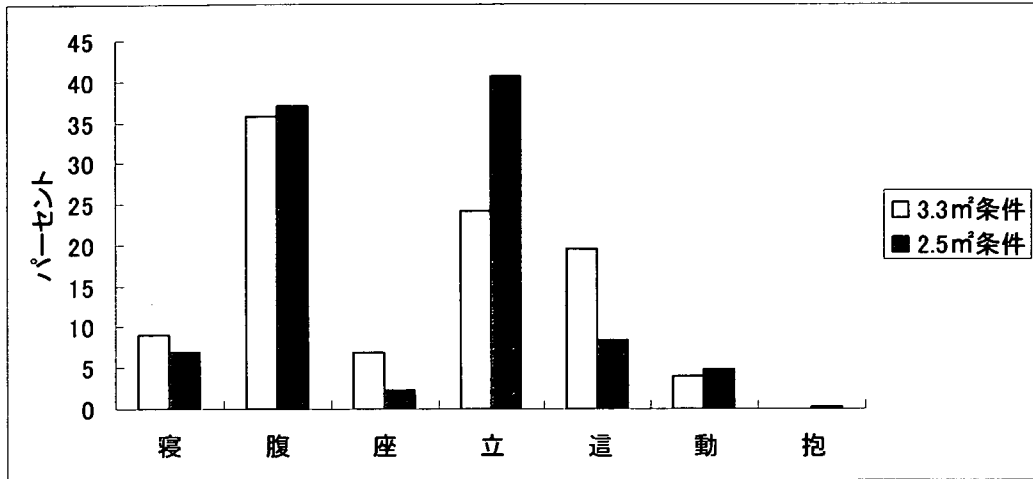
自由時間にとられていた子どもの活動内容について、図5-10に示した。

0歳児と1歳児の違いを比較すると、1歳児の方が、より玩具を使って遊んでいる時間帯が多かった。

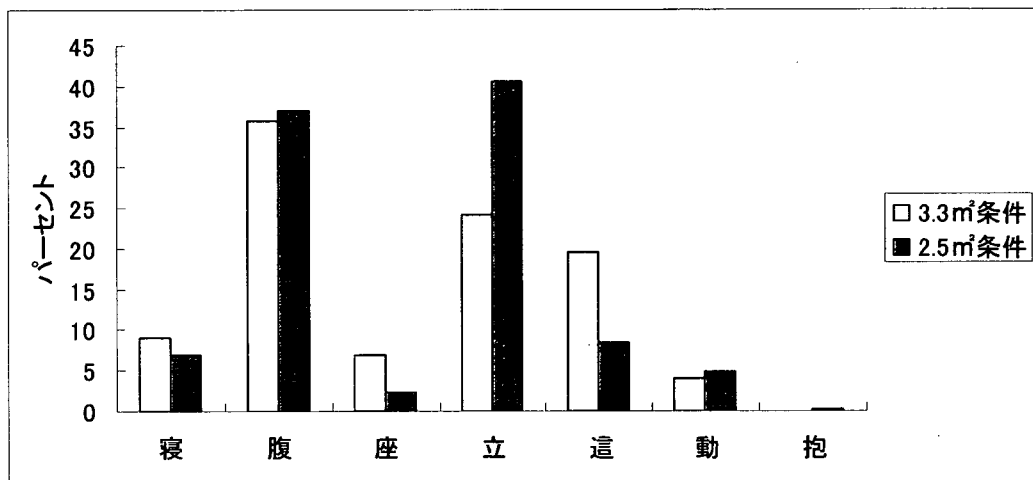
3.3㎡条件と2.5㎡条件の違いを比較すると、1歳児では、3.3㎡条件と2.5㎡条件の間に大きな違いは見られなかった。

0歳児では、場所移動に費やしていた時間が3.3㎡条件よりも2.5㎡条件のほうが有意に多かった。

0歳児クラスのデータのみ結果



1歳児クラスのデータのみ結果



全体のデータによる結果

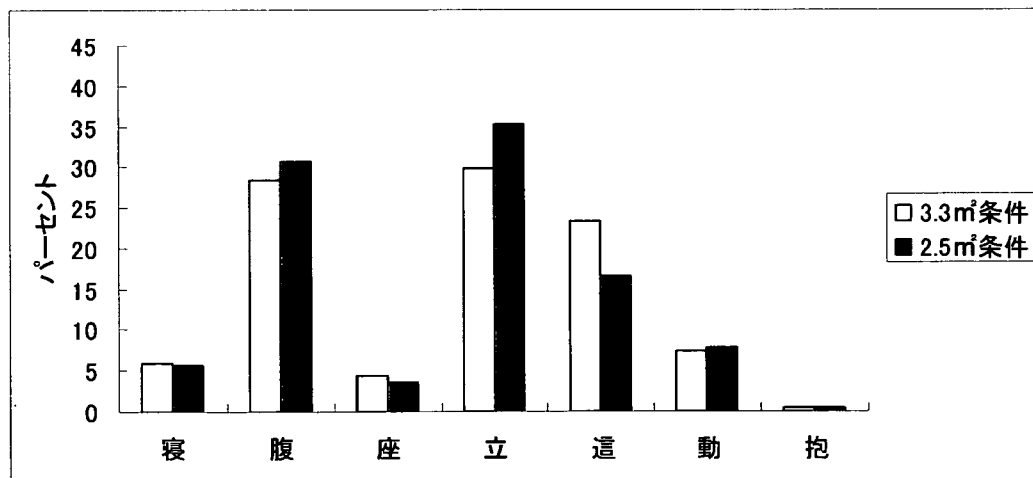
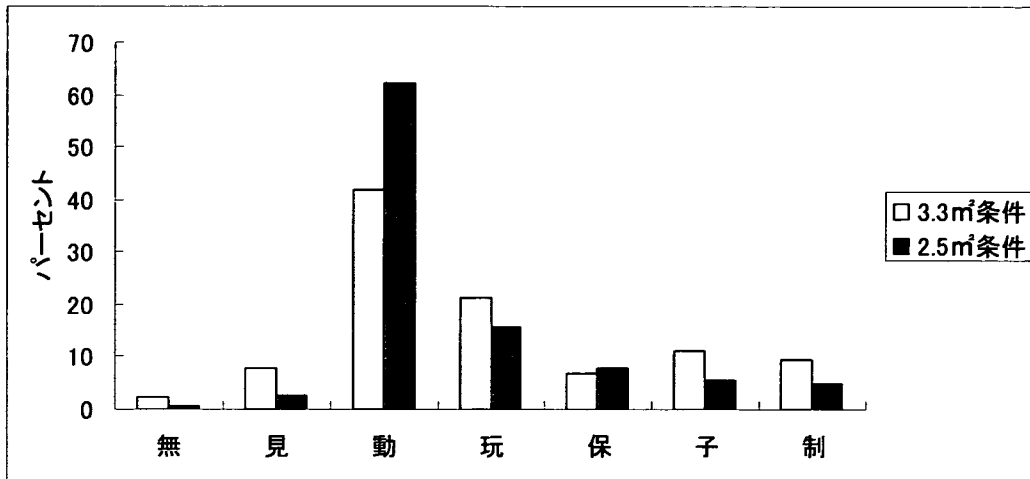


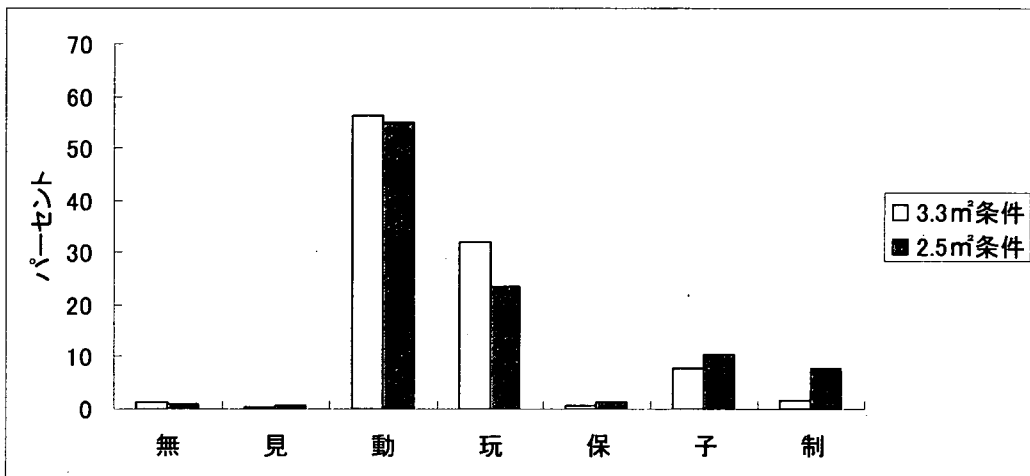
図5-9 自由時間にとられていた子どもの身体の状態

寝：仰向けに寝ている、腹：うつ伏せになっている、座：座っている、立：立っている、
 這：ハイハイで移動している、動：二足歩行で移動している、抱：保育者に抱かれている

0歳児のデータのみの結果



1歳児のデータのみの結果



全体のデータによる結果

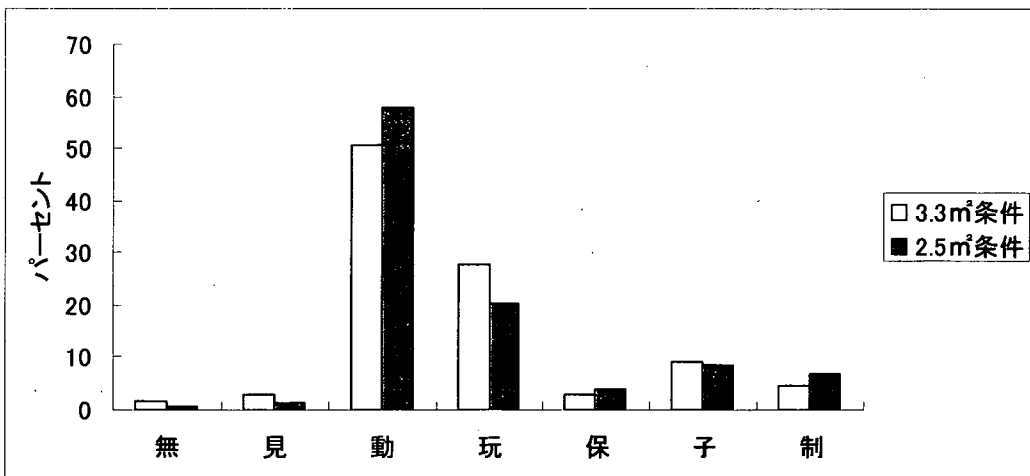


図5-10 自由時間にとられていた子どもの活動内容

無：何もしていない、見：何かを見ている（注意を払っている）、動：自分の身体を動かしている、
 玩：玩具などで一人で遊んでいる、保：保育者と関わりあっている、制：保育者に制止されている

4. 考察

本章では、子ども一人当たりの保育空間の広さを操作することで、保育空間の広さが子どもや保育士の行動等に及ぼす影響について検討した。

今回の研究では、あくまで6保育園のデータに基づくものでありデータ数も少ないため、一般化した結論は導くのは難しいかもしれない。また、後述するように、方法論上の問題が多数存在するため、その意味でも、明確に結論を出すことは慎重にならなければならないであろう。そのことを前提においた上で、今回の研究結果から考えられることをまとめたい。

(1) 子どもへの影響

活動するための面積が広ければ、当然、子どもの移動する量が増えると予測される。今回の結果は、予測どおり、3.3 m²条件の方が距離としての移動量が多かった。特筆すべきことは、距離として測定した移動量は3.3 m²条件の方が多かったのであるが、移動に従事していた時間は、2.5 m²条件の方が多かったという点である。子どもはある程度、動きたいという欲求をもっていると考えられるが、活動面積が狭い場合は十分にその欲求を満たされないため、移動に従事する時間が増えたのではないかと考えられる。子どもの活動欲求を十分に満たすという観点からは2.5 m²条件よりも3.3 m²条件のほうが好ましいと思われる。

また、今回の結果では、3.3 m²条件の方が2.5 m²条件よりも他の子どもとの接触量(ぶつかり)が少ないということが示された。子どもが保育士に制止されることが2.5 m²条件では多くなっているが(ただし統計的有意差はなし)、このことも2.5 m²条件では接触量が多いことと関係するであろう。また、保育士は2.5 m²条件のほうがよりストレスを感じていることも、このことと大きな関係があると思われる。もちろん、他の子どもとの接触には、発達上、マイナスの側面だけでなく、プラスの側面もあることは否め

ないが、子どもが安全に活動できるということから考えると、ある程度の空間の広さは重要であることが示唆された。

それほか、保育士の主観的要素が強いかもしれないが、3.3 m²条件のほうが2.5 m²条件よりも、子どもが身近なものへ興味をもち、食事を楽しむという結果も得られた。また、子どもの発話も、3.3 m²条件の方が多い傾向にあった。少なくとも、今回の結果からは、2.5 m²条件よりも3.3 m²条件の方が子どもにとってよいのではないかと思われる。

(2) 保育士への影響

今回の研究では、子どもへの影響の結果以上に、保育士への影響が大きいということが示された。

具体的には、食事の援助や休息への配慮などの項目で、3.3 m²条件の方が2.5 m²条件よりも、保育がよくできるという結果が示された。空間が狭ければ、保育士の移動できるスペースも少なくなるため、このような結果になったのであろう。2.5 m²条件のほうが保育士の声が大きく口調が強くなるという結果も得られているが、これも保育士が近くにすぐに動けないために、どうしても口で指示することが多くなるためではないかと思われる。主観的要素がかなり強いが、圧迫感や疲労感など、負の感情は、2.5 m²条件のほうが強く感じられるという結果も得られた。

保育士に対する影響は、子どもに対して間接的ではあるが影響を及ぼすものである。養育者がストレスを感じていることが、子どもの発達に悪影響を及ぼすことを示唆する研究は多い。その意味からも、3.3 m²条件の方が2.5 m²条件よりも好ましいのではないかと思われる。

(3) 方法論上の問題点

今回の研究では、方法論上の問題点が幾つかあり、今後、こうした点について検討していく必要がある。

まず、今回は、便宜的に 3.3 m²条件と 2.5 m²条件という 2つの広さを条件として設定し、その結果、2.5 m²条件よりは 3.3 m²条件のほうがよりよいという結果が得られた。しかし、これはあくまでも 2つの条件間の比較であって、3.3 m²という広さが子どもにとっての最善の条件かどうかはわからない。今後、いろいろな広さについて検討することが求められる。

保育の環境を操作するということは、子どもの権利を守るという観点から困難を伴う。今回の研究では、一応、一定の広さを条件として設定したが、あくまで保育士としての専門的視点から見て子どもの最善の利益が損なわれないように配慮しながら保育をしてもらうように保育士にお願いした。そのため、実際には設定された空間内だけで保育されているわけではなく、必要に応じて室外に出ているケースもあり、広さの条件が必ず統制されているとはいえない。

その意味では、実験的な条件操作に基づく量的分析だけでは限界があるのかもしれない。一日の保育記録とつき合わせながら、一人ひとりの子どもの行動、保育士の行動を細かく分析し、質的な違いを検討していくことが、今後は望ま

れる。

質的な分析にしる、量的な分析にしる、観察研究では膨大な労力を要する。そのため、今回の報告では、自由遊びの一部についてしか分析できなかった。今回の保育士のアンケート調査では、食事の援助や休息への配慮などで、2.5 m²条件よりも 3.3 m²条件の方が保育がよくできるという結果が示されていた。そのことから考えると、自由遊びの時間帯だけでなく、食事や午睡の時間帯を中心に、ビデオ分析をさらに進めていく必要がある。

ビデオ記録だけでは感情など細かなニュアンスの把握が難しいため、今回の研究では保育士のアンケート結果に重きをおいている。アンケート結果は保育士の意識を把握するうえでは重要であるが、保育士自身の主観や先入観などに結果が左右される危険性もある。その意味では観察やアンケート以外の方法論を取り入れていく必要性もある。第 6 章では、より客観的なデータ測定のための方法論の検討を行う。

保育士用アンケートマニュアル (観察していただきたい項目等に関する説明)

このたびは、お忙しいところ、研究にご協力くださり、ありがとうございます。保育士の皆様には、設定された保育場面において一日保育に従事していただいた後に、アンケートにお答えしていただきます。つきましては、アンケートに回答していただきたい内容（観察していただきたい内容）について、この説明書をもとに、あらかじめご理解いただきますようお願いいたします。

アンケートの内容は、大きく2つにわけられます。第1は、子どもの状態に関する項目で、全部で15問あります。保育中のお子さんについて観察して、一人ひとりの子どもの状態について回答してください。第2は、保育士自身の状態に関する項目です。ご自身の保育に関する質問が8問、基本的な行動に関する質問が2問、心理状態についての質問が5問で、合計15問あります。一日の保育を振り返り、皆様ご自身のことについて自己評価してください。

(1) 子どもの状態について

次の要領で保育中の子どもの状態について観察し、評価をしてください。

- ①子どもの観察にあたっては、一人ひとりの子どもに対して主たる観察担当者を決め、その人が原則として責任をもってその子どもを観察してください。もちろん、自分が観察担当にならなかった子どもについても、できるかぎり観察をしてください。
- ②保育終了後、その保育場面に関係した保育士全員で、一人ひとりの子どもの状態について話し合ってください。
- ③話し合いの結果、他の保育士の意見も参考にしながら、主たる観察担当者が最終的にその子の状態を評価してください。

【評価の仕方】

- 一人ひとりの子どもについて、各観察項目に基づいて観察し、評価してください。
- 評価は、いずれの観察項目とも、普段の様子を3として、1～5の5段階でもらいます。
 - ・普段と違いがほとんど感じられなかった場合は、「3」としてください。
 - ・普段と比べて、明らかな違いを感じた場合は、「1」または「5」としてください。
 - ・普段と比べて、明らかではないが、何となく違う感じがした場合は、「2」または「4」としてください。
- これらの評価は、あなたの保育士としての専門性に基づいた主観で判断してください。
- それぞれの項目について、5段階評価するとともに、何かお気づきの点や感じたことなどがございましたら、自由記述欄にお書きください。

(評価は、別紙「子どもについての評価（記録用紙）」に書いてください。)

【観察評価項目の説明】

①機嫌

一日の子どもの様子を全般的に観察して、機嫌が良かったかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。機嫌は、顔の表情や声の調子、泣きの量、体の動きなどから総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より機嫌がよい
4：普段よりやや機嫌がよい
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや機嫌が悪い
1：普段より機嫌が悪い

②元気さ

一日の子どもの様子を全般的に観察して、元気が良かったかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。元気さは、顔色や声の様子、体の動きなどから総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より元気がよい
4：普段よりやや元気がよい
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや元気がない
1：普段より元気がない

③発話（喃語や片言など）

一日の子どもの様子を全般的に観察して、喃語や片言などの発話が見られたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。ここでの発話は、他者に話しかけているものも独り言的なものも含めます。また、発話の意味がはっきりとわからないものも含めますが、泣きを含めないでください。

- 《評価基準》 5：普段より多い
4：普段よりやや多い
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや少ない
1：普段より少ない

④体全体の運動

一日の子どもの様子を全般的に観察して、体全体の運動が見られたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。体全体の運動とは、寝返り、はいはい、お座り、伝い歩き、立つ、歩くなどに始まり、発達に応じて、登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなど、体全体を動かす動作です。子どもが自発的に行ったものも、保育士の援助により行われたものも、すべて含めてください。運動に従事していた時間や運動の多様さなどを総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より多い
4：普段よりやや多い
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや少ない
1：普段より少ない

⑤手指の運動

一日の子どもの様子を全般的に観察して、手指の運動が見られたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。手指の運動とは、つまむ、たたく、ひっぱる、いじる、転がすなど、発達に応じた手や指を使う動作です。子どもが自発的に行ったものも、保育士が援助して行ったものも、すべて含めてください。運動に従事していた時間や運動の多様さなどを総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より多い
4：普段よりやや多い
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや少ない
1：普段より少ない

⑥気持ちの表出（甘えなど）

一日の子どもの様子を全般的に観察して、甘えなど自分の気持ちを表出していたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。気持ちの表出は、顔の表情や声の調子、泣きの量、体の動き、保育士との関わりなどから総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より気持ちが表出できている
4：普段よりやや気持ちが表出できている
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりあまり気持ちが表出できていない
1：普段より気持ちが表出できていない

⑦意欲

一日の子どもの様子を全般的に観察して、意欲があり自発的に物事をしようとしていたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。食事、遊び、人との関わりなどあらゆる場面から総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より意欲がある
4：普段よりやや意欲がある
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや意欲がない
1：普段より意欲がない

⑧他児への関わり

一日の子どもの様子を全般的に観察して、他児への関わりが見られたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。他の子どもへの注意や関心、模倣、接近、話しかけ、身体接触など、あらゆる関わりを含みますが、偶発的なもの（たまたまぶつかった等）は含みません。

- 《評価基準》 5：普段より関わりが多い
4：普段より関わりがやや多い
3：普段とほぼ同じである
2：普段より関わりがやや少ない
1：普段より関わりが少ない

⑨保育士への関わり

一日の子どもの様子を全般的に観察して、保育士への関わりが見られたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。保育士への注意や関心、模倣、接近、話しかけ、身体接触、など、あらゆる関わりを含みますが、偶発的なもの（たまたまぶつかった等）は含みません。

- 《評価基準》 5：普段より関わりが多い
4：普段より関わりがやや多い
3：普段とほぼ同じである
2：普段より関わりがやや少ない
1：普段より関わりが少ない

⑩身近なもの（家具・玩具・絵本など）への興味

一日の子どもの様子を全般的に観察して、身近なものに興味を示して関わっていたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。絵本を見たり、玩具で遊んだり、自然に関わったりしていたかなど、総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より関わりが多い
4：普段より関わりがやや多い
3：普段とほぼ同じである
2：普段より関わりがやや少ない
1：普段より関わりが少ない

⑪食事を楽しむ

食事（授乳や間食等を含む）の際の子どもの様子を観察して、子どもが食事を楽しんでいるか、普段のその子の様子を基準に評価してください。食欲の有無、スプーン等使用への意欲、食事の際の機嫌などから、総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より楽しんでいる
4：普段よりやや楽しんでいる
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや楽しんでいない
1：普段より楽しんでいない

⑫休息をとる

一日の子どもの様子を全般的に観察して、その子のリズムに応じた十分な休息がとられていたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。午睡への移行がスムーズかどうか、眠っているときに安眠を妨げられていないか、目覚めは快調だったかなど、総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より休息できている
4：普段よりやや休息できている
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや休息できていない
1：普段より休息できていない

⑬清潔を保つ

一日の子どもの様子を全般的に観察して、「手や顔を拭いてもらう」、「手洗いをする」、「必要に応じて衣服（オムツ等を含む）の交換をする」など、清潔を保つような行動がきちんと行っていたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。実際に清潔が保っていたかどうか、嫌がっていなかったかどうか、自分でしようとする意欲がみられたかどうかなど、総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段よりきちんとできている
4：普段よりややきちんとできている
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりややきちんとできていない
1：普段よりきちんとできていない

⑭トラブル

一日の子どもの様子を全般的に観察して、怪我をしたり、他の子どもとケンカしたりするなど、何かトラブルがあったかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。

- 《評価基準》 5：普段よりトラブルが多い
4：普段よりトラブルがやや多い
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりトラブルがやや少ない
1：普段よりトラブルが少ない

⑮部屋を出ようとする

一日の子どもの様子を全般的に観察して、今回観察場面として設定した部屋から出ようとしていたかどうかを、普段のその子の様子を基準に評価してください。実際に部屋を出た回数はもちろん、実際に外に出なくても出たがっていた様子なども含めて、総合的に判断してください。

- 《評価基準》 5：普段より部屋を出ようとする
4：普段よりやや部屋を出ようとする
3：普段とほぼ同じである
2：普段よりやや部屋を出ようとし
1：普段より部屋を出ようとし